

令和 3年 2月 10日

報道機関 各位

産学連携でうつ病モニターマーカーの研究開発を開始

■本件の概要

島根大学医学部精神医学講座（稲垣 正俊 教授、和氣 玲 人間科学部 准教授、宮岡 剛 臨床教授（松江青葉病院副院長））と免疫精神神経学共同研究講座（大西 新 特任教授）によって開発された尿ストレスマーカーを応用したうつ病モニターマーカーの研究開発を産学連携で開始します。

■研究開発の背景

うつ病は、気分の落ち込みが続き、何にも興味が持てない、注意集中力が続かないなどの症状のために日常生活に支障をきたし、生活の質を大きく低下させる疾患です。環境調整や心理・薬物療法が治療となりますが、なかなか治らないこともときにあり、その症状の変化を誰にでもわかる形でモニターする（確認する）方法を開発することが求められています。

■研究計画

うつ病の原因は様々あると言われていますが、中でも何らかの過度なストレスもうつ病発の大きな原因になると考えられています。精神医学講座では、このストレスを定量的に測定するバイオマーカー研究を 2005 年から進め、2018年から免疫精神神経学共同研究講座がこの研究に参画し、まったく新しい尿ストレスマーカーを開発しました（特許第 6737995 号、特許第 6817666 号、特許第 6811507 号）。今回、精神疾患を専門とする研究開発型ベンチャー企業である株式会社 RESVO や製薬会社の協力のもと、この尿ストレスマーカーを応用したうつ病モニターマーカーの研究開発を開始します。

■今後の展開

今回の研究と合わせ、製薬関連企業と研究開発を重ねることで、革新的なうつ病治療法の開発に繋がることが予想されます。

【用語説明】

研究開発型ベンチャー：

研究開発型ベンチャーの明確な定義はないが、一般的に、コア技術、特許権等をもとに研究開発・事業を行う比較的若い企業を指します。

モニターマーカー：

病気の状態を把握するための指標。

尿ストレスマーカー：

体がストレスを受けている時に増減する尿の成分を用いたストレス状態の指標。

<本件の連絡先>

島根大学医学部免疫精神神経学共同研究講座

特任教授 大西 新

Mail: arata <at> resvo-inc.com ※ <at> は@に置き換えてください